

# 「活動を通じた指導の在り方」について



## 1. 外国語を学ぶ意義

- AI時代に外国語を学ぶ意義の再定義と、外国語の「見方・考え方」の見直し

## 2. 目標・内容の一層の構造化

- 「学びに向かう力・人間性等」の整理等を踏まえた目標の示し方
- 「高次の資質・能力」（「知識及び技能の統合的な理解」「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」）を中心とした内容の一層の構造化

## 3. 発信力強化

### (1) グローバル・多文化共生社会の担い手の育成 (外国語で他者とコミュニケーションを図る意欲等の育成)

- 英語を学ぶ動機付けや児童生徒の目標設定の在り方
- 動機付けを強化するための話題・活動の在り方

### (2) 英語の使い手の育成（英語運用能力の育成）

- 校種間接続の課題等を踏まえた指導内容（話題・活動等）の段階的な示し方
- 5領域の活動を通じた知識及び技能の指導の在り方（語彙や文法の指導を含む）
- 科学的知見を踏まえた学習プロセスを意識した指導の在り方
- 高等学校の科目（特に「論理・表現」）の在り方
- AIを含むデジタル学習基盤の活用の在り方

## 4. 児童生徒の英語力の把握・評価

- 「学びに向かう力・人間性等」の評価の新しい整理を踏まえた評価等の在り方

## 5. 柔軟な教育課程

- 義務教育における調整授業時数制度や高校における科目の柔軟な組み替えや履修の免除を可能とする仕組みを前提とした場合に、考えられる教育課程・学習指導の工夫の在り方

## 6. 指導体制・環境整備等

- AI時代の教師・ALT等の役割の再定義
- 教員の資質（英語力・授業力）向上のための方策と、ALT等との連携の在り方
- 外国語を使う機会の充実の在り方

## 7. 英語運用能力に関する社会全体の課題

- 英語運用能力に関する社会全体の課題と、学校教育において取りうる対応の方向性

## 8. 英語以外の外国語

- 英語以外の外国語の推進方策

## 【現状と課題】

### 1. 「言語活動」に関する経緯

- 昭和44・45年改訂において、外国語の学習指導要領の「学習活動」が「言語活動」と位置付けられた。以降、言語活動の内容が徐々に高度化するとともに、前回改訂において、「言語活動」に目的や場面、状況などの設定が求められ、活動内容が例示となり、思・判・表を育成するものとされた
- 外国語の目標の柱書に「言語活動を通して」が規定されたことにより、「言語活動を通した指導」の必要性が学校現場に浸透し、5領域の活動を通した指導の推進に一定の進捗が見られる

### 2. 「言語活動」に関する課題

#### (1) 目標柱書の記載

- 目標の柱書の「言語活動を通して…育成する」という規定ぶりが、言語活動以外の活動は行ってはならない、望ましくないとの誤解を生じさせているとの指摘がある
- 個別の活動が「言語活動かどうか」という議論に陥りがちな面がある

#### (2) 言語活動に必要な要素

- 前回改訂において、「言語活動」の内容は例示となった一方、告示本文に「言語活動」に必要な要素が規定されておらず、「言語活動」の解釈のばらつきがみられる

※「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの言語活動」との文言はあるが、言語活動を定義する規定とはなっていない。また、やり取り中心の記述となっている

※多様な活動をどこまで「言語活動」に含めるのか等については、様々な受け止めがある状況

## 【方向性と具体的論点（案）】

### 1. 検討の方向性

- 活動を中心とした指導というこれまでの改善の趣旨は維持しつつ、生じている課題を踏まえて一層の授業改善に資するよう、分かりやすく使いやすい学習指導要領という方針に基づき、用語や記載を整理すべきではないか

### 2. 具体的な改善案

#### (1) 目標柱書の記載

- 目標の柱書において、資質・能力の育成のために必要な活動を過不足なく明記すべきではないか

#### (2) 言語活動に必要な要素

- 学習指導要領本文において、活動に必要な要素を具体的に書き下して示すべきではないか

## 【現状と課題】

### (3) 資質・能力との関係

- 「言語活動」が主に思・判・表の育成を目的とするものと位置付けられている一方、知・技は「言語活動を通して」育成することとされている。また、「言語材料について理解したり練習したりするための指導」は「言語活動を行う際…必要に応じて行う」と限定的な記載となっている。  
※後者は小・中学校の学習指導要領における記述。高校においては本文に「練習」に関する記述はない
- 上記のとおり、知・技の育成については、思・判・表を育成する過程で育成される場合と、限定的な「理解したり練習したりする指導」により育成される場合のみが位置づけられており、知・技の育成を目的とする活動の位置づけが不明確であることから、知・技を育成するための段階的な指導の必要性や具体がわかりにくいとの指摘がある
- 「言語活動」と資質・能力との関係が十分に整理されておらず、活動を通じてどのような資質・能力を育成するかが意識されていない可能性がある

### (4) 「言語活動」という用語の位置づけ

- H20改訂において、思・判・表の育成のための言語能力育成の観点から、各教科の学習指導要領本文に言語活動が位置づけられ、「言語活動」は学習指導要領全体の共通用語となっている。一方で、外国語における「言語活動」は、改訂を経て、他教科と比してその要件や位置づけが重くなっており、共通用語である「言語活動」という文言では表しきれない概念となっている

### (5) 練習の位置づけ

- 「言語活動を行う際は…言語材料について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行う」としているが、「練習」という言葉から想起されるイメージが様々となっている

## 【方向性と具体的論点（案）】

### (3) 資質・能力との関係

- 教師等が活動を通じてどのような資質・能力を育成するかをより意識しやすくなるよう、育成する資質・能力により活動を整理し、知・技の育成を目的とする活動も明確に位置づけるべきではないか
- その上で、知・技を育成する活動と思・判・表を育成する活動を相互に関連付けながら、これらの資質・能力を一体的に育成する指導の在り方を整理し、学習指導要領の内容の取扱いや解説で示すべきではないか
- 併せて、学校現場の負担を軽減しつつ、効果的な実践が行いやすくなるよう、第二言語習得の研究や認知心理学、学習科学などの知見も踏まえ、教師の指導や学習者の自己調整学習において参考となる学習動画等を提供するべきではないか

### (4) 言語活動という用語の位置づけ

- 上記(1)～(3)を整理することにより、従来の「言語活動」という文言で表したかったことを分かりやすく示すべきではないか

### (5) 練習の位置づけ

- 「練習」という言葉から想起されるイメージが様々となっていること、当該文言を用いている教科がごく一部であることも踏まえ、「練習」は用いずに必要な活動を記載すべきではないか

# 学習指導要領における言語活動の位置づけの変遷

S44・45改訂

H10改訂

H29・30改訂

言語活動の要件

言語活動の文言が登場  
(従来は学習活動)

言語活動に**使用場面**の設定を求める  
(※高校はH元年改訂のOCより)

言語活動に**目的や場面、状況など**の設定を求める

- 言語活動：言語を聞いたり、話したり、読んだり、書いたりする、言語を総合的に理解したり表現したりする活動。音声も文型も文法事項も含めて、総合的に行わせるものであり、言語の実際の使用につながるもの
- 練習：音声、文型、文法事項のような言語の一面だけについての練習  
(※高校の説明より。中学校の説明は確認できず)

言語活動が思・判・表の育成と結びつく

言語活動の内容

指導事項として具体的な活動を記載

活動内容は徐々に高度化

活動は例示となる

練習の位置づけ

言語活動に練習の要素が高い活動が含まれていた

言語活動から練習的な要素が減少

(高) 言語活動を効果的に行うための指導事項として練習的な指導を位置づけ

(中) 言語材料について理解したり練習したりする活動を言語活動に位置付け

言語活動を効果的に行うための指導事項から練習的な要素が減少

言語活動を効果的に行うための指導事項の記載がなくなる

言語材料について理解したり練習したりする活動が言語活動から外れる

(参考) 他教科の状況

S44改訂

中学校の総則において「学校生活全体における言語環境を整え、生徒の言語活動が適正に行なわれるように努めること」を位置づけ  
(小学校はS52年、高校はS53年改訂で位置づけ)

H10改訂

国語の指導要領本文に言語活動の例を規定

H20改訂

H19の学教法改正により学力の3要素が示されたことに伴い、思・判・表を育成するために言語能力を育成する必要性から、総則において国語科を要として各教科等の特質に応じて言語活動を充実することとされ、各教科の指導要領本文に言語活動を位置づけ

# 現行の学習指導要領の「言語活動」を通じた指導と今回の整理の関係

## 「言語活動」を通じた指導

### 「言語活動」

#### ① コミュニケーション活動（主に思・判・表を育成）

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて  
外国語で理解したり、表現したり、伝え合ったりする活動

← ①の活動に対する指導

#### 現行の学習指導要領における位置づけが不明確な部分

#### ② コミュニケーション活動を支える活動（主に知・技を育成）

音声や語彙、表現等を、文脈\*などの中で理解・活用する活動

← ②の活動に対する指導

「言語材料について理解したり練習したりするための指導」（小・中のみ記載あり）

\*前後関係

# 【参考】現行の学習指導要領における言語活動に関する主な記載（小・中・高）

※中学校の例だが、小学校、高等学校にも同趣旨の記載あり

## 【本文】

### 第1 目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 知識及び技能 (2) 思考力、判断力、表現力等 (3) 学びに向かう力、人間性等

### 第2 各言語の目標及び内容等

#### 英語

#### 2 内容

##### 〔知識及び技能〕

- (1) 英語の特徴やきまりに関する事項

実際に英語を用いた言語活動を通して、…言語材料…について理解するとともに、言語材料と言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることができるよう指導する。

##### 〔思考力、判断力、表現力等〕

- (2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項 …

- (3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

##### ① 言語活動に関する事項

(2) (※思・判・表)に示す事項については、(1) (※知・技)に示す事項を活用して、例えば、次のような言語活動を通して指導する。

ア (略) イ 聞くこと ウ 読むこと エ 話すこと [やり取り] オ 話すこと [発表] カ 書くこと

##### ② 言語の働きに関する事項

言語活動を行うに当たり、主として次に示すような言語の使用場面や言語の働きを取り上げるようにする。

ア 言語の使用場面の例 イ 言語の働きの例

※知・技も言語活動を通して育成することとしている一方、言語活動が主に思・判・表の育成を目的とするような規定となっている

(一方で、言語活動例には、文字を発音する、アルファベットを書く(小)や音読(中)など、思・判・表との関係が分かりにくい活動も例示されている)

### 3 指導計画の作成と内容の取扱い ※「(1)指導計画の作成上の配慮事項」の記載は次頁参照

#### (2) 内容の取扱い

ク 各単元や各時間の指導に当たっては、コミュニケーションを行う目的、場面、状況などを明確に設定し、言語活動を通して育成すべき資質・能力を明確に示すことにより、生徒が学習の見通しを立てたり、振り返ったりすることができるようにすること。

# 【参考】現行の学習指導要領における言語活動に関する主な記載（小・中）

※高等学校においては練習に関する記載は無い

## 小学校

### 【本文】

3 指導計画の作成と内容の取扱い (1)指導計画の作成上の配慮事項(1)

ウ 実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの言語活動を行う際は、2の(1)に示す言語材料について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行うこと。また、第3学年及び第4学年において第4章外国語活動を履修する際に扱った簡単な語句や基本的な表現などの学習内容を繰り返し指導し定着を図ること。

### 【説明】

この配慮事項は、言語を使用する場面を設定し、実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動が重要であることを示している。

また、そのような活動を行う際には、単元又は1単位時間の初期段階で言語活動を通して学習内容として設定されている表現の音声を聞いたり話したりするなど、英語の音声に慣れ親しませる活動を展開し、言語の意味や働きなどを理解させることが大切である。その上で、後期段階においては、設定された場面の中で、自分の考えや気持ちを互いに伝え合う言語活動を展開するなどの学習過程の工夫が大切である。

※小・中において「言語材料を理解したり練習したりする指導」は、「必要に応じて行う」と限定的な位置づけ

→（前スライドの記載と合わせて）小・中においては、知・技は、思・判・表を育成する言語活動（P.5の①）に伴って、

または（限定的な）理解したり練習したりする指導により育成するような規定となっている（P.5の②が十分に位置づけられていない）

※高校においては、「言語材料を理解したり練習したりする指導」が本文に位置付けられていない（P.5の②が位置づけられていない）

## 中学校

### 【本文】

3 指導計画の作成と内容の取扱い (1)指導計画の作成上の配慮事項(1)

ウ 実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの言語活動を行う際は、2の(1)に示す言語材料について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行うこと。また、小学校第3学年から第6学年までに扱った簡単な語句や基本的な表現などの学習内容を繰り返し指導し定着を図ること。

### 【説明】

この配慮事項は、今回の改訂で小学校第3学年から外国語活動、第5学年から外国語科が導入されたことを受け、前段では改訂前に「実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動を行うとともに（中略）言語材料について理解したり練習したりする活動を行う」と示されていたものを変更するとともに、後段を新しく示したものである。

言語活動は、「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなど」の活動を基本とする。小学校の中学年の外国語活動で実践されている「自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、好みや要求などの自分の考えや気持ちなどを伝え合う活動」や高学年の外国語科で実践されている「日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを伝えたり、簡単な質問をしたり質問に答えたりして伝え合う活動」などを踏まえて行うことが大切である。

中学校第1学年においては、特に、小学校における外国語活動や外国語科の内容、指導等の実態や生徒の興味・関心等を十分に踏まえるとともに、生徒が在籍していた小学校において、どのような時間割編成、指導体制によって授業が行われているかを把握することにより、中学校への円滑な接続を図ることが必要である。その上で、2(1)に示す言語材料について「理解したり練習したりするための指導」を必要に応じて行うことができるように指導計画を作成することが大切である。

また、言語材料について理解したり練習したりすることが目的となって、単に繰り返し活動を行うのではなく、生徒が言語活動の目的や言語の使用場面を意識して行うことができるように留意しなければならぬ。小学校段階で「聞くこと」、「話すこと」に加えて「読むこと」、「書くこと」を通して学んだ簡単な語句や基本的な表現などの学習内容については、言語活動において具体的な課題等を設定するなどして、意味のある文脈の中でのコミュニケーションを通して繰り返し活用し定着を図ることができるように指導を行うことが求められている。その際、ICT等を活用した効果的な言語活動の工夫や、生徒が自らの学習活動を振り返って次につながる「主体的な学び」ができるようにすることも重要となる。

# 【参考】前回の学習指導要領（平成20年告示）における言語活動に関する主な記載（中）

## 前回指導要領（H20）中学校

### 【本文】

#### 2 内容（2）言語活動の取扱い

- ア（ア）実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動を行うとともに、(3)に示す言語材料について理解したり練習したりする活動を行うようにすること。
- （イ）実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動においては、具体的な場面や状況に合った適切な表現を自ら考えて言語活動ができるようにすること。
- （ウ）言語活動を行うに当たり、主として次に示すような言語の使用場面や言語の働きを取り上げるようにすること。

### 【説明】

言語活動では、実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動が重要であるが、それを支える言語材料について理解したり練習したりする活動も必要である。ここでは、3学年間を通した言語活動の取扱いについての全体的な配慮事項として、その両者のバランスに配慮しつつ指導することの必要性を述べている。実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動を行うに当たっては、それを支える言語材料についての理解や定着のための練習が不可欠である。言語を使用する活動を強く指向するあまり、発音の基本、語句や文の構造についての指導がなおざりにされることがあってはならない。また、これとは逆に、言語材料について理解したり練習したりする活動に終始し、その結果、言語を使用する活動そのものが不十分になることのないように配慮する必要がある。

※前回指導要領（H20）では、「言語材料について理解したり練習したりする活動」が言語活動として位置づけられていたが、現行（H29）では、「必要に応じて行う」と限定的な位置付けとなっている

## 現行指導要領（H30）中学校

### 【本文】

#### 3 指導計画の作成と内容の取扱い（1）指導計画の作成上の配慮事項(1)

- ウ 実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの言語活動を行う際は、2の（1）に示す言語材料について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行うこと。また、小学校第3学年から第6学年までに扱った簡単な語句や基本的な表現などの学習内容を繰り返し指導し定着を図ること。

生徒が行う活動

教師の指導

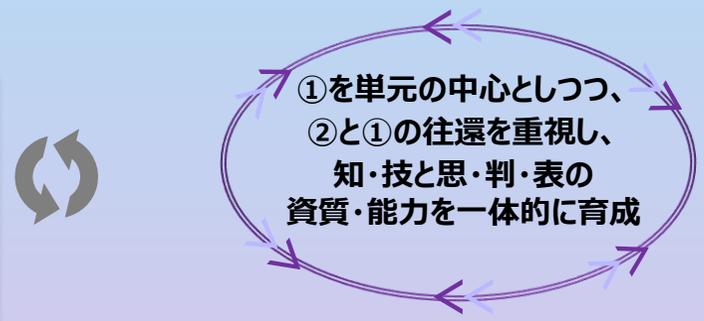
①コミュニケーション活動（主に思・判・表を育成）

※知・技も習熟・熟達に向かう  
**コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて**  
 外国語で理解したり、表現したり、伝え合ったりする活動

①の活動に対する指導

- (例)
- コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じた、
    - 聞き取ったり、読み取ったりした情報の整理などに関する指導
    - 伝えるべき内容に関する指導
    - 分かりやすく伝えるための伝える順序などに関する指導
    - 相手の理解に配慮した伝え方の工夫に関する指導

授業と家庭学習との連携



(①⇔②を往還させる指導の例)

- ①でコミュニケーションを行うことにより知識及び技能の必要性（表現しきれないことや間違い等）に気付かせ、②により使い方に慣れる
- ②を行う際に、本単元が目標とするコミュニケーションを行う目的や場面、状況などを生徒に共有して学習の目的意識を持たせる
- ②である程度活用できるようになった知識及び技能を、①でコミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて使わせる

②コミュニケーション活動を支える活動（主に知・技を育成）

音声や語彙、文法等を、文脈\*などの中で  
 理解・活用する活動

②の活動に対する指導

- (例)
- 特定の語彙や文法等について、正しい理解を促す指導
  - 特定の語彙や文法等の意味や概念、使い方について整理する指導
  - 様々な学習方略の指導
- ※いずれも個々の生徒の理解や特性に応じ、個別又は全体に対して実施

- (例)
- 特定の語彙や文法等をコミュニケーションで使う活動
  - 特定の語彙や文法等の意味や使い方に気づいたり理解したりする活動
  - 語句や表現を覚える活動
  - 流暢性を高める活動

\*前後関係  
 ※①と②は活動・指導の順序を表すものでもない  
 ※②において【P】言語の働きを扱う際は語彙や文法等を特定しない場合もある  
 ※単元全体や個々の授業でどのような資質・能力の育成を目的としているかに着目して活動や指導の内容を判断すべきであり、上記で示しているものは個々の活動や指導の外形的な条件ではない

## 児童が行う活動

## ① コミュニケーション活動（主に思・判・表を育成）

※知・技も深まる

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて  
外国語で理解したり、表現したり、伝え合ったりする活動

①を単元を中心として、  
②と①の往還を重視し、  
知・技と思・判・表の  
資質・能力を一体的に育成

授業と家庭学習との連携



## ② コミュニケーション活動を支える活動（主に知・技を育成）

音声や文字、語彙、表現等を、文脈\*などの中で  
理解・活用する活動

(例)

- 特定の語彙や表現等をコミュニケーションで使う活動
- 音声や文字、語彙、表現、文構造等について日本語との違いについて気づいたり理解したりする活動
- 語彙や表現を覚える活動

## 教師の指導

## ①の活動に対する指導

(例)

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じた、

- 聞き取ったり、読み取ったりした情報の整理などに関する指導
- 伝えるべき内容に関する指導
- 分かりやすく伝えるための伝える順序などに関する指導
- 相手の理解に配慮した伝え方の工夫に関する指導

(①⇔②を往還させる指導の例)

- ①でコミュニケーションを行うことにより知識及び技能の必要性（表現しきれないことや間違い等）に気付かせ、②により使い方に慣れる
- ②を行う際に、本単元が目標とするコミュニケーションを行う目的や場面、状況などを児童に共有して学習の目的意識を持たせる
- ②で慣れ親しんだ知識及び技能を、①でコミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて使わせる

## ②の活動に対する指導

(例)

- 特定の語彙や表現等について、理解を促す指導
- 特定の語彙や表現等の使い方について整理する指導
- 様々な学習方略の指導

※いずれも個々の児童の理解や特性に応じ、個別又は全体に対して実施

\*前後関係

※小学校外国語においては、音声や文字、語彙、表現等を文脈などと関連付けながら気付かせる段階であることを踏まえ、②を①と関連付けて指導することが特に大事

※①と②は活動・指導の順序を表すものでもない

※単元全体や個々の授業でどのような資質・能力の育成を目的としているかに着目して活動や指導の内容を判断すべきであり、上記で示しているものは個々の活動や指導の外的な条件ではない

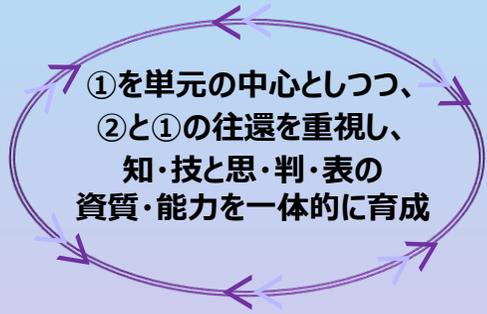
※マーカー箇所は小学校・外国語との主な相違点

児童が行う活動

教師の指導

①コミュニケーション活動（主に思・判・表を育成）

外国語で理解したり、表現したり、伝え合ったりする活動



②コミュニケーション活動を支える活動（主に知・技を育成）

英語の音声や基本的な表現等に慣れ親しみ、言語や文化の違いや共通点について体験的に理解する活動

- (例)
- 外国と日本の違いや共通点に気付く活動
  - 英語の音声や基本的な表現等を聞く活動
  - 英語の簡単な語句や基本的な表現等を用いて話す活動

①の活動に対する指導

- (例)
- コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを意識した、
- 伝えるべき内容に関する指導
  - 相手に配慮した伝え方の工夫に関する事項

(①⇔②を往還させる指導の例)

- ②で扱った英語の音声や基本的な表現を①の活動で実際に使わせる
- ②を行う際に、本単元が目標とするコミュニケーションを行う目的や場面、状況などを児童に共有して学習の目的意識を持たせる
- ①でコミュニケーションを行うことにより英語の音声や基本的な表現への気付きを促し、②により使い方に慣れ親しませる

②の活動に対する指導

- (例)
- 外国と日本の違いや共通点に気付かせる指導
  - 英語の音声や基本的な表現等を聞き取る指導
  - 英語の簡単な語句や基本的な表現等を用いて話す指導

※小学校外国語活動においては、初めて英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ段階であることを踏まえ、②で扱った英語の音声や基本的な表現等を①と関連付けて指導することが特に大事  
 ※①と②は活動・指導の順序を表すものでもない  
 ※単元全体や個々の授業でどのような資質・能力の育成を目的としているかに着目して活動や指導の内容を判断すべきであり、上記で示しているものは個々の活動や指導の外形的な条件ではない

# 外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を育成する指導の在り方等に盛り込む要素（中・高のイメージ）（Ver.2）

※本資料はあくまで盛り込むべき要素のイメージを示したものであり、実際の学習指導要領本文及び説明の文章は議論を踏まえて引き続き検討。

## 本文に盛り込む要素（イメージ）

### 第1 目標

- 外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す  
(知識及び技能) (思考力、判断力、表現力等) (学びに向かう力、人間性等)

### 第2 各言語の目標及び内容等 英語

#### 3 指導計画の作成と内容の取扱い

- コミュニケーション活動は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて外国語で理解したり、表現したり、伝え合ったりする活動とし、主に思・判・表を育成する
- コミュニケーション活動を効果的に行うため、コミュニケーション活動を支える活動として、音声や語彙、表現、文構造、文法、言語の働き等を文脈などの中で理解し、活用する活動を行い、主に知・技を育成する
- コミュニケーション活動とコミュニケーション活動を支える活動は、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことについて行う  
(※高校では統合的な活動も記載)
- コミュニケーション活動とコミュニケーション活動を支える活動を相互に関連付けながら、知・技と思・判・表を一体的に育成する
  - ✓ 実際の活動には、知・技と思・判・表の育成の両方の要素が含まれることが多いと考えられるが、主にどのような資質・能力を育成しようとしているのかを踏まえて活動を行うことの重要性
  - ✓ 導入した語彙や文法等をすぐに話せる、書けることを求めるのではなく、聞いたり読んだりして理解する段階から、次第に話したり書いたりする段階へと発展させる

## 解説で記載する要素例（イメージ）

- コミュニケーション活動では、生徒が既習事項等を最大限駆使して行うことの重要性
- コミュニケーション活動の中で、語彙や文法等の意味や用法等の理解が深まったり、場面や状況に応じて組み合わせる使う力が高まったりするなど、知・技も習熟・熟達に向かうことに留意
- コミュニケーション活動を単元の中心としつつ、生徒の学習状況等に応じて、コミュニケーション活動とコミュニケーション活動を支える活動のバランスを考慮する必要性
- コミュニケーション活動を効果的に行うため、コミュニケーション活動を支える活動の適切なタイミング（コミュニケーション活動の前後や間）を考慮する必要性
- 具体的な指導例

# 外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を育成する指導の在り方等に盛り込む要素（小・外国語のイメージ）（Ver.2）

※本資料はあくまで盛り込むべき要素のイメージを示したものであり、実際の学習指導要領本文及び説明の文章は議論を踏まえて引き続き検討。

※マーカー箇所は中学校との主な相違点。

## 本文に盛り込む要素（イメージ）

### 第1 目標

- 外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す（知識及び技能）（思考力、判断力、表現力等）（学びに向かう力、人間性等）

### 第2 各言語の目標及び内容等 英語

#### 3 指導計画の作成と内容の取扱い

- コミュニケーション活動は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて外国語で理解したり、表現したり、伝え合ったりする活動とし、主に思・判・表を育成する
- コミュニケーション活動を効果的に行うため、コミュニケーション活動を支える活動として、音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働き等を文脈などの中で理解し、活用する活動を行い、主に知・技を育成する
- コミュニケーション活動とコミュニケーション活動を支える活動は、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことについて行う
- 小学校外国語においては、音声や文字、語彙、表現、文構造等を文脈などと関連付けながら気付かせる段階であることを踏まえ、コミュニケーション活動とコミュニケーション活動を支える活動を相互に関連付けながら、知・技と思・判・表を一体的に育成する
  - ✓ 実際の活動には、知・技と思・判・表の育成の両方の要素が含まれることが多いと考えられるが、主にどのような資質・能力を育成しようとしているのかを踏まえて活動を行うことの重要性
  - ✓ 導入した語彙や表現等をすぐに話せる、書けることを求めるのではなく、聞いたり読んだりして理解する段階から、次第に話したり書いたりする段階へと発展させる。特に、読むこと、書くことにおいては、音声で十分に慣れ親しんだ上で、理解したり活用したりできる指導を行う

## 解説で記載する要素例（イメージ）

- コミュニケーション活動では、児童が既習事項等を最大限駆使して行うことの重要性
- コミュニケーション活動の中で、音声や文字、語彙、表現等についての理解が深まり、場面や状況に応じて組み合わせる使用力が高まったりするなど、知・技も深まることに留意
- コミュニケーション活動を単元の中心としつつ、児童の学習状況等に応じて、コミュニケーション活動とコミュニケーション活動を支える活動のバランスを考慮する必要性
- コミュニケーション活動を効果的に行うため、コミュニケーション活動を支える活動の適切なタイミング（コミュニケーション活動の前後や間）を考慮する必要性
- 具体的な指導例

# 外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を育成する指導の在り方等に盛り込む要素（小・外国語活動のイメージ）

※本資料はあくまで盛り込むべき要素のイメージを示したものであり、実際の学習指導要領本文及び説明の文章は議論を踏まえて引き続き検討。

※マーカー箇所は小学校外国語科との主な相違点。

## 本文に盛り込む要素（イメージ）

### 第1 目標

- 外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して、次のとおり育成することを目指す（知識及び技能）（思考力、判断力、表現力等）（学びに向かう力、人間性等）

### 第2 各言語の目標及び内容等 英語

#### 3 指導計画の作成と内容の取扱い

- コミュニケーション活動は、外国語で理解したり、表現したり、伝え合ったりする活動とし、主に思・判・表を育成する
- コミュニケーション活動を効果的に行うため、コミュニケーション活動を支える活動として、英語の音声や基本的な表現等に慣れ親しみ、言語や文化の違いや共通点について体験的に理解する活動を行い、主に知・技を育成する
- コミュニケーション活動とコミュニケーション活動を支える活動は、聞くこと、話すことについて行う
- 小学校外国語活動においては、音声や語彙を使用される場面などと関連付けながら気付かせる段階であることを踏まえ、コミュニケーション活動とコミュニケーション活動を支える活動を相互に関連付けながら、知・技と思・判・表を一体的に育成する
  - ✓ 実際の活動には、知・技と思・判・表の育成の両方の要素が含まれることが多いと考えられるが、主にどのような資質・能力を育成しようとしているのかを踏まえて活動を行うことの重要性
  - ✓ 導入した語彙や表現等をすぐに話せることを求めるのではなく、聞いて慣れ親しむ段階から、次第に話す段階へとつなげていく

## 解説で記載する要素例（イメージ）

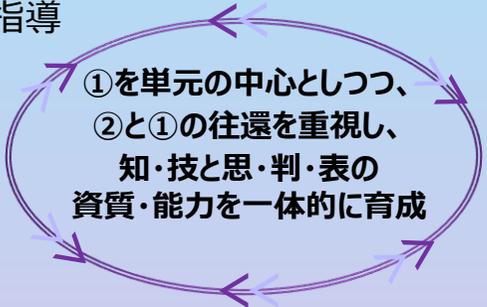
- コミュニケーション活動では、児童が十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて行うことの重要性
- 英語の音声や基本的な表現等に慣れ親しみ、コミュニケーション活動で、相手と意味のあるやり取りを様々な場面設定の中で行うことを通して、英語の音声や基本的な表現等への気付きを促すとともに、日本と外国の言語や文化の違いや共通点について理解するなど、知・技も同時に育成されることに留意
- コミュニケーション活動を単元の中心としつつ、初めて外国語に触れる段階であることに考慮して、コミュニケーション活動とコミュニケーション活動を支える活動のバランスを考慮する必要性
- コミュニケーション活動を効果的に行うため、コミュニケーション活動を支える活動の適切なタイミング（コミュニケーション活動の前後や間）を考慮する必要性
- 具体的な指導例

■ 単元目標：他校の同級生に自分たちの学校のことをよく知ってもらうために、校内のお気に入りの場所について紹介する。  
 (Let's Try!2 Unit8 : This is my favorite place.) (「話すこと [発表]」)

① コミュニケーション活動（主に思・判・表を育成）

外国語で理解したり、表現したり、伝え合ったりする活動

①の活動に対する指導



※以下は活動・指導の一部の例を示したものであり、特定の活動や指導を推奨するものではない。また、活動・指導の順序を表すものでもない。

- 他校の同級生に、自分たちの学校のことをよく知ってもらうために、自分のお気に入りの場所について紹介する  
 (例：This is my favorite place. The library. I like books.)
- 学校のお気に入りの場所について、その理由とともに友達と紹介し合う
- クラスメイトの紹介を聞き、紹介の仕方や表現で工夫していると思ったこと  
 (声の大きさ、動作や表情、写真等の提示 など) を共有する
- 校内の地図を使って、ペアで学校のお気に入りの場所を案内したり、紹介したりする

② コミュニケーション活動を支える活動（主に知・技を育成）

英語の音声や基本的な表現等に慣れ親しみ、言語や文化の違いや共通点について体験的に理解する活動

②の活動に対する指導

- (例) ・ALTが母国の話をしたり、デジタル教材を視聴させたりして、外国と日本の小学校の共通点や相違点に気付かせる  
 ・教室名や道案内の表現を使いながら、児童とやり取りを行い、チャンツや歌で語彙や表現に慣れ親しませる

- 教師やALTの話の聞いたりデジタル教材を視聴したりして、教室名や道案内の語彙や表現に気付く
- 教室名の頭文字や教室の特徴を示す語彙や表現を使ってクイズを出し合い、語彙や表現に慣れ親しむ

※小学校外国語活動においては、初めて英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ段階であることを踏まえ、②で扱った英語の音声や基本的な表現等を①と関連付けて指導することが特に大事

- 単元目標：ALTの先生に自分たちの地域のことをもっと好きになってもらえるように、地域の魅力を紹介する。  
（「話すこと〔発表〕」）

### ① コミュニケーション活動（主に思・判・表を育成）

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて  
外国語で理解したり、表現したり、伝え合ったりする活動

①の活動に対する指導

①を単元を中心としつつ、  
②と①の往還を重視し、  
知・技と思・判・表の  
資質・能力を一体的に育成

※以下は活動・指導の一部の例を示したものであり、特定の活動や指導を推奨するものではない。また、活動・指導の順序を表すものでもない。

- ALTの先生に自分たちの地域のことをもっと好きになってもらえるように、地域の魅力を紹介する
  - 自分の紹介したい地域の魅力について、おすすめする理由などを加えて、クラスメイトと詳しく伝え合う
  - クラスメイトと、おすすめしたい地域の魅力を紹介し合い、ALTの先生に魅力が伝わる内容になっているか、工夫点を整理し、内容や表現を再考する
- デジタル学習基盤の活用：自分の発表を動画で録画し、教師や友達の動画と比較しながら工夫点を考える
- 家庭学習：デジタル教科書を使って、紹介で使いたい語彙や表現の練習する
- 自分が紹介したい地域の魅力についてクラスメイトと伝え合う

### ② コミュニケーション活動を支える活動（主に知・技を育成）

音声や文字、語彙、表現等を、文脈\*などの中で  
理解・活用する活動

②の活動に対する指導

（例）教科書の音声や指導者の話を聞いて、語彙や表現（I want to go to ~. / In~, you can ~. / It's~.等）について語句絵カード等を使って意味や使い方を整理する

- 教科書で使用されている表現等（I want to go to ~. / In~, you can ~.）を使って、教師やクラスメイトと自分が紹介したい地域について伝え合う
- 教科書の映像教材を視聴したり、ALTや指導者の地域紹介を聞いたりして、紹介で使われている語彙や表現に気付く

■ デジタル学習基盤の活用：デジタル教科書等の音声や動画を視聴し、語彙や表現を聞いて確認したり、練習したりする

■ 単元目標：日本に来たことがない海外の生徒に「食べてみたい！」と思ってもらえるように、おすすめしたい住んでいる町の食べ物とその理由を整理して紹介することができる。（「話すこと [発表]」）

① コミュニケーション活動（主に思・判・表を育成）

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて外国語で理解したり、表現したり、伝え合ったりする活動

①の活動に対する指導

※以下は活動・指導の一部の例を示したものであり、特定の活動や指導を推奨するものではない。また、活動・指導の順序を表すものでもない。

- ・海外の生徒とオンラインで、相手の食文化や好みに合わせておすすめしたい住んでいる町の食べ物を紹介し合う
- ・クラスメイトやALTと、相手の好みに合わせておすすめしたい住んでいる町の食べ物を紹介し合う

■ AI：紹介した内容や表現について、目標を踏まえたAIからのフィードバックに基づいて改善する  
様々な人物設定をしたAIとやり取りをする

■ 家庭学習：おすすめしたい住んでいる町の食べ物とその理由について伝える練習をする

- ・ご当地の食べ物について書かれた教科書本文の表現を参考にしながら、おすすめしたい住んでいる町の食べ物とその理由について、まとまりのある英文で紹介する

■ AI：紹介した内容や表現について、目標を踏まえたAIからのフィードバックに基づいて改善する

- ・接続詞も使いながら、おすすめしたい住んでいる町の食べ物とその理由を伝え合う
- ・ご当地の食べ物について書かれた教科書本文の概要を捉え、内容を参考にしながら伝える内容を考える（聞くこと、読むこと）

② コミュニケーション活動を支える活動（主に知・技を育成）

音声や語彙、文法等を、文脈\* などの中で理解・活用する活動

②の活動に対する指導

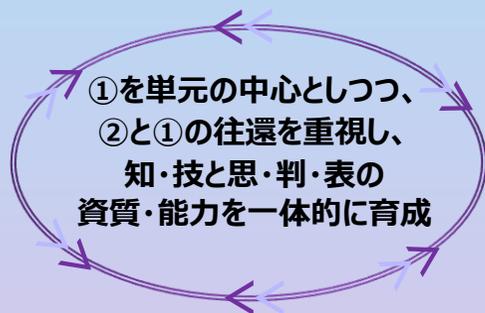
（例）様々な接続詞の例文を示し、接続詞の働き（文と文をつなぐ）や文構造等に気付かせ、整理する

- ・接続詞becauseを使って理由を加えながら、生徒同士で「好きなもの（食べ物や本など）」について伝え合う
- ・教科書本文から、接続詞becauseが使われている表現に着目し、使い方を理解する

■ 家庭学習・AI：生徒個人の興味・関心に合ったAIからの質問に、接続詞becauseを使って表現する。接続詞の使い方について誤りがある場合は、AIからのフィードバックにより修正する

- ・接続詞を使って文と文をつなげて話したり書いたりする

■ 家庭学習・AI：接続詞の使い方についての問題演習、本文の音読練習や単語練習



授業と家庭学習との連携

■ 単元目標：クラスメイトとリーダーシップについての考えを深めるために、リーダーに求める資質について、自分の考えを理由とともに話して伝えることができる。（「話すこと [発表] ※「英語コミュニケーション（総合 I）」

① コミュニケーション活動（主に思・判・表を育成）

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて外国語で理解したり、表現したり、伝え合ったりする活動

①の活動に対する指導

※以下は活動・指導の一部の例を示したものであり、特定の活動や指導を推奨するものではない。また、活動・指導の順序を表すものでもない。

- リーダーに求める資質について、自分の経験を述べたり優れたリーダーシップを発揮した人物を取り上げたりしながら、自分の考えを理由とともに伝える。また発表された内容について意見を伝え合う

■ AI：リーダーに求める資質について自分の意見を話し、目標を踏まえたAIからのフィードバックに基づいて内容や表現を改善する

- 自分がリーダーを選ぶときに重視することについて、自分の経験などを踏まえて伝え合う
- マララ・ユスフザイ氏の行動とその行動がもたらした影響に注目しながら教科書の文章を読んで、彼女のどのような行動が人々を動かしたのかについて自分の考えを伝え合う

- 教科書の内容や語彙・表現等を参考にしながら、リーダーに求める資質について伝えたい内容や、どのように伝えるかを検討して簡単なアウトラインを作成する
- 優れたリーダーシップを発揮した人物を取り上げ、その人物がとった行動を時制等に留意しながら伝え合う

■ 家庭学習：優れたリーダーと思う人物について説明するのに必要となる基本的な情報や出来事などを、英語で説明できるようにキーワードなどをまとめる

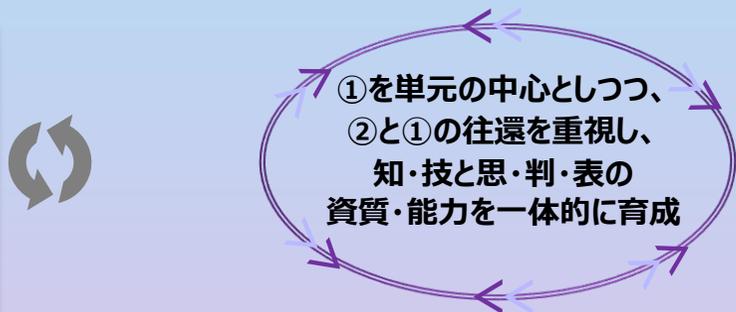
- 過去完了形を使って、自分が過去に後悔したり驚いたりしたことについて、結果を先に述べてその原因を説明する構成で簡潔に伝え合う
- マララ・ユスフザイ氏について書かれた教科書の内容をもとに、この人物を知らない同級生に対して紹介する設定で、過去形と過去完了形など動詞の形に留意しながら話して伝える

■ 家庭学習：教科書の内容を知らない相手に、読んだ内容を説明するためのキーワードをまとめる

- 教科書や複数の例文を読んで、過去完了形が使われる場面の特徴や過去形と過去完了形の違い、それらの使い方を理解する

■ 家庭学習・AI：教科書で扱われた文法事項についての問題演習、本文の音読練習や単語練習

授業と家庭学習との連携



② コミュニケーション活動を支える活動（主に知・技を育成）

音声や語彙、文法等を、文脈\* などの中で理解・活用する活動

②の活動に対する指導

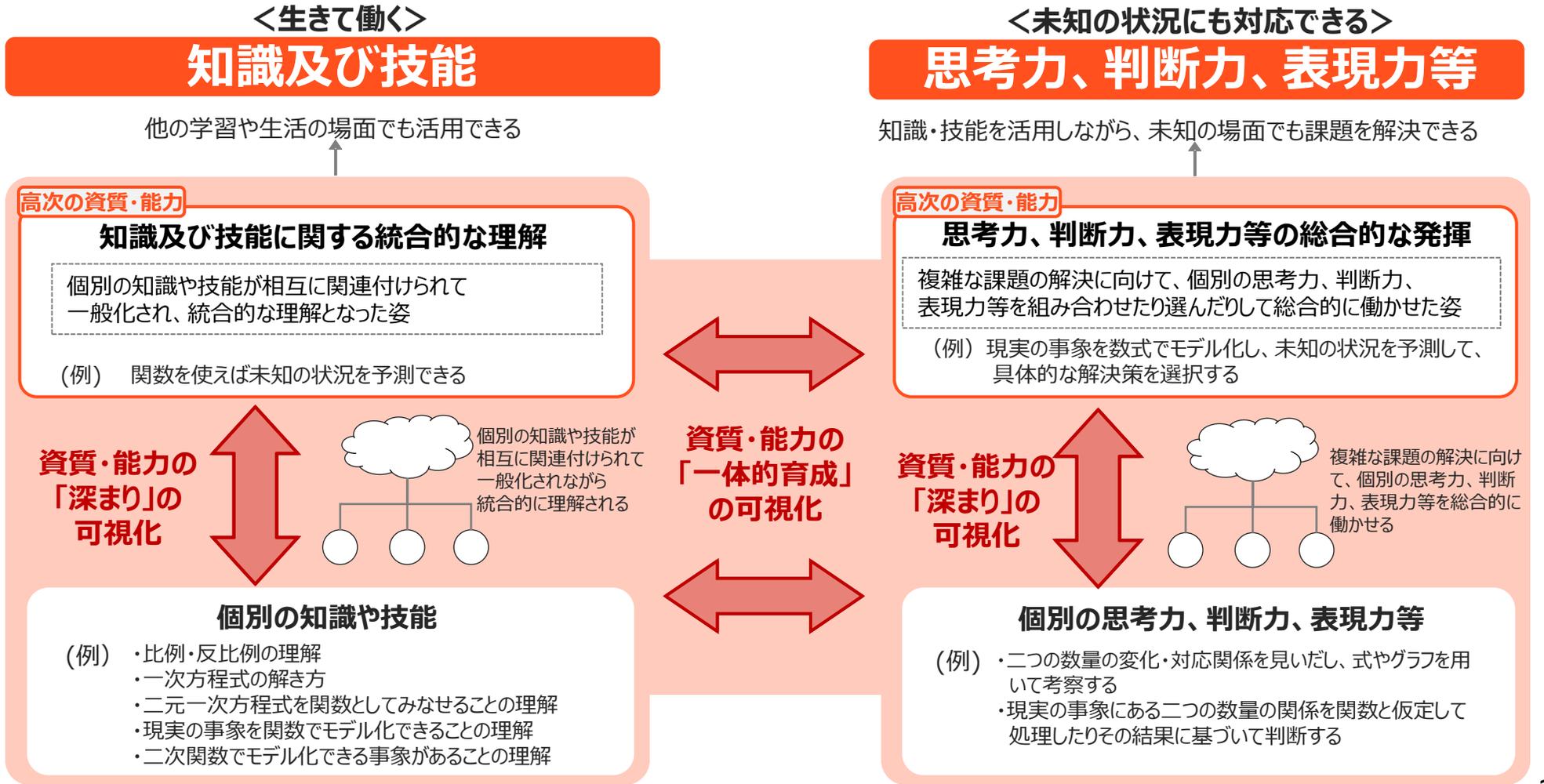
（例）教科書で扱われた文法事項（例：様々な時制と相）を含む例文を示し、働きの違いに気付かせ、整理する



# 参考資料・データ

# 「資質・能力の深まり」と「資質・能力の一体的育成」の可視化による「深い学び」の具現化

- 知識の理解も、それが生きて働くように深く学ぶことが重要。思考力、判断力、表現力等も、社会や生活で直面する未知の状況でも課題解決に繋げていけるよう「質」を高めることが重要（**資質・能力の「深まり」**）
- ある程度の知識・技能なしに思考・判断・表現することは難しいし、思考・判断・表現を伴う学習活動なしに、知識の深い理解と技能の確かな定着は難しい（**資質・能力の「一体的育成」**）  
 ➔こうした「**資質・能力の深まり**」と「**資質・能力の一体的育成**」を学習指導要領上で可視化することにより、**資質・能力の関係性の理解や、それらを一体的に育成するための教師の単元づくりを助け、「深い学び」を授業で具現化しやすくする**



※「高次の資質・能力」は、個別の資質・能力が深まることで至る、「統合的な理解」や「総合的な発揮」を指し示すものであり、個別の資質・能力との関係で重要性の軽重を意味するものではない。

# (参考) 形式重視から意味重視への連続体

## 意味重視

### Focus on meaning

## 形式重視

### Focus on forms

真正な コミュニケーション (Authentic communication)	構造化された コミュニケーション (Structured communication)	コミュニケーション 言語練習 (Communicative language practice)	プレ・コミュニケーション 言語練習 (Pre-communicative language practice)	非コミュニケーション 学習 (Non-communicative learning)
<p>伝える内容（意味）が予測不可能な状況で、言語を使ってコミュニケーションを行う</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 創造的なロールプレイ</li> <li>• より複雑な問題解決</li> <li>• ディスカッション</li> </ul>	<p>これまでに学習した言語を引き出せるような状況で、ある程度の予測不可能性を伴いながら、言語を使ってコミュニケーションを行う</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 特定の表現等を使用するよう意図的に設定されたロールプレイ</li> <li>• 簡単な問題解決</li> </ul>	<p>新しい情報を伝える（やり取りする）状況の中で、これまで教わった言語を練習する</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 情報ギャップ活動 (既に教わった単語を使ってクラスメイトにアンケートを実施する)</li> </ul>	<p>他者に新しいメッセージを伝える（やり取りする）ことはせずに、意味にある程度注意を向けながら言語を練習する</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 質疑応答練習 (答えの内容が共有されている状況で、言葉の意味に注意を向けなければ答えられない質問)</li> </ul>	<p>言語の構造に焦点を当て、それがどのように形成され、何を意味するのかに注目して学習する</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 主語や名詞の置き換え練習</li> <li>• 文法の規則性や構造などを発見させる活動</li> <li>• 文法練習</li> <li>• 語彙の学習</li> </ul>
タスク (Tasks)			(Exercises) 練習	
コミュニケーションタスク (Communicative tasks)			(Enabling Tasks) 支援 / 足場タスク*	

\*コミュニケーションタスクを成し遂げられるよう、生徒に必要な言語的ツール（文法、語彙、発音、機能、ディスコース）を身に付けさせることを目的とするタスク

(出典) Littlewood, W. (2004). The task-based approach: some questions and suggestions. ELT Journal, 58, 319-326

Estaire, S. & J. Zanon. (1994). Planning Classwork: A Task Based Approach. Oxford: Heinemann. 15

※文部科学省で仮訳・色付けしたものであり、原文の一部を省略している

を基に作成。